

## 一般演題抄録

### < 一般演題 1 >

#### 悪性が疑われた皮膚付属器腫瘍の 1 例

菊地 良直, 高澤 豊, 深山 正久

東京大学大学院医学系研究科 病因病理学専攻 人体病理学・病理診断学分野

【症 例】42 歳, 男性. 肥満, 高脂血症にて東大病院内科にてフォローされていた. 4.5 年前より左環指の腫瘤を自覚. 徐々に増大してきたため, 同院形成外科にて切除術を施行された. 真皮から皮下組織にかけて, 漿液性内容物を含む腫瘍が認められ, 腫瘍が断片状に切除された.

【組織像】小胞巣状, 索状あるいは充実性に増生する腫瘍で, 腺管構造や乳頭状構造が散見された. 腫瘍は基底細胞様細胞が主体であるが, 淡明な細胞も少数混在していた. 軽度の異型性が見られ, 核分裂像が散見された. 免疫組織化学的検索では, 腫瘍は S-100 およびケラチン陽性. 特に腺管構造を呈する部分では CEA および EMA 陽性. また p53 の過剰発現が認められた. 悪性皮膚付属器腫瘍が考えられたが確定診断は困難であった. 根治的拡大切除が施行されたが, 切除検体に腫瘍の残存は認めなかった.

【問題点】組織診断, 特に良悪性の判定.

### < 一般演題 2 >

#### Rippled pattern を示した皮膚腫瘍

新井 栄一, 小川 史洋, 廣瀬 隆則, 清水 道生

埼玉医科大学病理学教室

【症 例】62 歳, 男性. 2 年前より左側頭部に淡紅色結節が出現し増大してきた. 受診時には 13x13mm の八頭状, 硬の隆起性病変がみられた.

【組織像】組織学的に腫瘍は境界明瞭で, 表皮との連続性はなく, 真皮に大小数ヶの結合性被膜を有する結節性腫瘍細胞巣が見出された. 腫瘍構成細胞は小型で類円型の核を有し, 硝子化した間質とともに, rippled (さざ波状) pattern を示していた. この中に空胞化した細胞質を有する脂腺への分化を示す細胞が散見された.

【考 察】本例にみられた rippled pattern は Verocay body 様の配列を示すこともあり, いくつかの付属器系, 上皮系腫瘍でみられることが知られている.

【問題点】組織診断, rippled pattern の意義

< 一般演題 3 >

## Sebaceoma の 1 例

笹尾 ゆき，斉藤 澄，松原 大祐，望月 眞  
国立国際医療センター 臨床検査病理

【症 例】44 歳，男性．7 年前から頭部腫瘤を自覚．最近増大傾向を示したため全摘が施行された．

【組織像】腫瘍は直径 2.5cm 大，ドーム状で，病理組織学的には真皮内の左右対称性病変であった．基底細胞様細胞が索状から充実性に増殖し，一部で淡明な胞体を有する脂腺細胞や脂腺導管構造、扁平上皮への分化が認められた．

【考 察】皮膚付属器腫瘍はその由来や分化の程度により分類可能と考えられている．本症例は脂腺への分化が明瞭に認められたことから，脂腺系腫瘍や脂腺への分化を伴う基底細胞癌，及び汗腺由来腫瘍が鑑別診断として挙げられた．腫瘍胞巣辺縁に柵状配列や裂隙形成は認められないことより，基底細胞癌は否定された．明瞭な脂腺への分化が認められることより cylindroma や spiradenoma は考えにくい．脂腺系腫瘍としては脂腺小葉構造が不明瞭なことから sebaceous adenoma とは異なるものと考えられ，最終的に sebaceoma との診断が得られた．

【問題点】組織診断

< 一般演題 4 >

## 急激に増大した頭部皮膚腫瘍

三浦 圭子<sup>1</sup>，伊東 干城<sup>1</sup>，猪狩 亨<sup>1</sup>，真鍋 俊明<sup>2</sup>

1. 東京医科歯科大学医学部附属病院病理部，2. 京都大学医学部附属病院病理部

【症 例】64 歳，男性．数年前より頭皮に約 1cm 大の結節があり．徐々に増大していたが 3 ヶ月の間に急速に増大したため当院形成外科受診．

【現 症】左頭頂部の径約 5cm 大，皮表より球状に突出する表面平滑，無毛性で小潰瘍を散在する垂有茎性腫瘍．生検にて有棘細胞癌の診断，全切除された．

【組織像】表皮と連続し真皮から皮下脂肪織を占居する境界明瞭な腫瘍．腫瘍間質と周囲との間に裂隙を形成する．腫瘍の中心部は広範に出血と壊死を生じて囊腫様構造を示し，辺縁付近に残存する小型立方上皮様細胞が索状・同心円状，一部敷石状に配列して好酸性細胞に移行している．

【問題点】組織診断，良悪性の判定．